

さっぽろ読書・図書館プラン2022

【基本理念】「市民の生涯にわたる学びや創造的な活動を支える」
【3つの重要な観点】

- ①地域展開：市民が身近な場で学び、サービスを活用する方法を考える観点
- ②変化に対応した読書環境・図書館：広い視野で図書館政策や読書環境の充実を考える観点
- ③取組の継続・持続可能性：財源や人材確保、事業内容など様々な見直しを考える視点

図書館の現状と展望

◆ 図書館の現状

施設の老朽化や図書購入費の減少、専門員(図書館司書)の業務体制といった課題がある一方で、利用者対応などでは、高い評価を受けています。その結果、「図書・情報館」をはじめとした札幌市の図書館は「ライブラリーオブザイヤー」を受賞しました。

◆ 今後の展開

「さっぽろ読書・図書館プラン2022」の方針を受け、「地域展開のかたち」や「学びの拠点としての図書館」についての調査研究を行うこととしている。

◆ 検討に盛り込まれるべき視点

- ☆ 図書館における「人生100年時代の学びの拠点」としての役割
- ☆ 市民のウェルネスを実現するための図書館の役割
- ☆ 様々な環境の変化に対応できる図書館像
- ☆ 図書館が行うべき「地域展開」のかたち



「図書・情報館」では、「課題解決に向けた自らの学び」を実感できる取組(レファレンス・サービスの強化や、交流会の開催、企画展示等)を行っており、高い評価(年間100万人規模の来館者、ライブラリーオブザイヤー受賞)を受けている。

目標とするイメージは「さまざまな人や情報が集まる、出会いと成長の新たな学びの空間へ」。このイメージの実現に向け、令和4(2022)年度から「**図書館の在り方検討**」の取組をスタートさせます。

「図書館の在り方検討」とは

地域の図書館を「人生100年時代の学び直しや、多様な学びを支援する身近な生涯学習拠点」として機能の充実に向けたプランニングを行い市民に提案する取り組みです。

上記の「在るべき図書館の未来のスタイル」を基にニーズ調査を含む各種調査と分析を行い、機能、運営方法、施設整備などの総合的な戦略設計をめざします。

【「在り方検討」のR4・R5の流れ】

〈令和4(2022)年度〉

- 市民ニーズの調査(基礎調査)
 - ①図書館についての市民アンケート調査 ②地区図書館に関する地域ニーズ調査
- 他都市事例の調査
他都市の図書館のサービスや施設、運営方法等を調査し新しい図書館スタイルを探る。
- 考察分析1(基本設計の策定)
上記の情報を基に、考察と分析を行い、在り方についての基本設計(方向性)の策定を行う。

〈令和5(2023)年度〉

- 考察分析2(実施調査)
基本設計を基に、サービス提供や施設整備、運営手法等の考察や有識者の意見も取り入れ、実施に向けた設計を行い、今後に向けた「図書館の在り方」を策定する。

○ 上記の在り方検討の間にも、各図書館においては各種の提案型、参加型の事業を実施することで「知の拠点」「自らの学びの場」としての図書館の在り方を市民に提案していく。



	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	2025(R7)	2026(R8)	2027(R9)
図書館の在り方検討ロードマップ	【在り方検討①基礎調査】 ・市民アンケート/地域ニーズ調査実施 ・他都市事例の調査 ・分析調査/考察等 ・基本設計(方向性)の策定	【在り方検討②実施調査】 ・実施に向けた設計を策定 ・在り方や運営方法等について提言をまとめる ・各図書館でのモデル事業の実施	・在り方検討の結果である提言を踏まえ、「地域展開」「学びの場」としての拠点化を推進する、図書館の取組/運営を実施していく ⇒分析、検証			
	アクションプラン2019					
次期中期計画						

(NoMaps×図書・情報館連携イベント「ごきげんアイスが生まれるまで」)

ウェルネスワーキングの取り組み

【ウェルネスワーキングとは】

札幌市では次期長期戦略ビジョンの策定にあたり、誰もが生涯を通じて健康で、社会参加できるコミュニティの実現を目指しています。そのため教育委員会、保健福祉局、経済局等により組織横断的に設けられた検討チームです。



交流とにぎわいの提供：「女性起業家交流会」図書・情報館

ウェルネスワーキングでは「健康行動促進」と「ウオーカブルシティ」、「人世100年時代の学びと社会参加」をテーマに精神的、知的、社会的なウェルネス実現の方策をまとめ、本市の政策調整の場である「サマープレビュー」において提言しました。

【方向性】さまざまな人や情報が集まる、出会いと成長の新たな学びの空間へ
＜3つの視点＞

- 1 ウェルネスの実現：豊かな人生に必要な情報、知識を提供
- 2 自ら学ぶ拠点：生涯にわたり自らの可能性をひろげられる学びの拠点
- 3 地域の特性を活かす：各地域の魅力を活かした、楽しい暮らしをつくる場所

○検討に当たってのポイント

- ✓ 図書館のクラウド化
非来館型サービスの進展(来館者数の減、ネット予約の普及、電子書籍の急成長、郵送貸出等)
- ✓ リアルな図書館の賑わい
文化的体験や体感、思いがけない情報との出会い。サードプレイス、エクササイズ、自習など個人が気軽に使える場であるとともに、交流の場、未来を考える場としての機能の提供。

「図書・情報館」で得られた知見に、市民ニーズ調査の結果を加え、「地域の学びの場」を実現。

「さっぽろ読書・図書館プラン2022」「図書館の在り方検討」を具体化し提案する取り組み

ウェルネスの実現に向け「図書館×○○」による図書館のリ・デザイン
ウェルネスの実現に向け図書館に地域特性(食や文化、自然環境、施設など)を掛け合わせ、地域ごとにふさわしい館の在り方を再設計

(リ・デザイン取組みの例)

- ・プロスポーツと共同(トークライブや実演、関連展示)
- ・食、健康、アウトドアなど、ウェルネス関連の提案事業(民間企業や店舗との連携、関連展示)
- ・プレ定年世代へのアプローチ(就労、健康、趣味等ライフプランセミナー)
- ・ソーシャルビジネス支援(キャリアチェンジ、副業など)
- ・自ら学ぶ機能の充実(ICT環境、交流・学習ゾーン)



現在、各地区図書館では地域の特性やニーズを反映した独自の展示やレイアウトなど工夫しています。(山の手図書館)



仕事や趣味といった暮らしの中での「自らの学び」を後押しする提案型書棚。(中央図書館「暮らし応援棚」)

取組を通じて、「自ら学ぶ・エンパワーメントの場」「生涯学習のきっかけ」としての図書館(特に地区図書館)を市民に知ってもらい、ウェルネスの実現につなげていく。



フェアトレードフェスタinさっぽろとの連携でウェルネス、食、環境の関心を高めました。(図書・情報館)